

【団体名】一般社団法人ピッカ

事業報告書

<p>事業名</p>	<p>音を絵にしてみよう！子どもたち&障がい児の為にジャズでアートチャレンジ教室</p>
<p>【計画時の事業内容】</p> <p>◎パフォーマンス・ショータイム アイルランド ダブリンのニューパーク音楽大学を卒業し音楽学士号取得の若きミュージシャン/ジャズギタリスト「源内」参加の「Zunguka 共和国」総勢 11 名による生演奏 & パフォーマンス。アフリカ音楽とジャズが融合した「和フリカンジャズ」を演奏予定。その演奏の中で、全国の施設等でアートワーク教室を開催するデコピン(SWITCH BOMB)氏が解説しながらのアートパフォーマンス。子どもたちはまずは観て体感して驚きや感動を得て欲しい。</p> <p>◎創作チャレンジ教室 参加者は、クレヨンアート、カラーペイント、タイダイ染めのちぎり絵の創作にチャレンジ。ペットボトルを利用したライスシェーカー(お米を入れた簡単な楽器)にペインティング&デザインを施してオリジナル楽器作り。完成した楽器で「Zunguka 共和国」の生演奏に参加。</p> <p>◎発表タイム 時間の許す限り、各班の創作アートを、ステージ上で発表してもらおう。講師はそれらの創作アートのどこが素敵だったか、どこをどう変更すれば更に良くなるか等のレクチャーをする。短い時間の中でも創造性を育み、仲間に発表する喜びも体感してもらおう。</p> <p>-----</p> <p>【実施時期・場所】</p> <p>◎実施時期 ①:2020年1月~2月の土日祝日の適時な日程で開催 ②:各小中学校、特別支援学校、福祉施設等の行事やイベントと重ならない日程、1日を各方面と協議しながら慎重に選定する。 ③:準備は午前中。開催は、12:30 開場、13:00 開講、16:00 終講予定で組み立てる。</p> <p>◎実施場所 ④:宮前市民館、多摩市民館、麻生市民館、高津市民館、等いずれかの「大会議室」1カ所。</p>	<p>【実施結果(成果)】</p> <p>■実施場所 / 日程 2月24日(祝/月) 川崎市立宮崎台小学校 体育館 12:30 開場 / 13:00 開講 / 15:30 終講</p> <p>■参加人数 ・子ども(障がい児):29名、保護者/付添:33名、見学のみ:8名程度 ・指導者:岩永浩二、デコピン/大内康弘、源内/岩永源内、JENI/小脇由香里、中島一郎、ダンサー/ナオト、Zunguka 共和国 メンバー9名</p> <p>◎パフォーマンス・ショータイム アイルランド ダブリンのニューパーク音楽大学を卒業し音楽学士号取得の若きミュージシャン/ジャズギタリスト「源内」参加の Zunguka 共和国 による生演奏 & パフォーマンス。アフリカ音楽とジャズが融合した「和フリカンジャズ」にみんなビックリしながらもドンドン引き込まれて行きます。その演奏の中で、全国の施設等でアートワーク教室を開催するデコピン(SWITCH BOMB)氏が解説しながらのアートパフォーマンス。子どもたちはまずは観て体感しました。</p> <p>◎創作チャレンジ教室 追ってすぐに実際にクレヨン作画にチャレンジ。音楽が鳴り響き、会場の楽しく明るい雰囲気の中で、それぞれ高揚しながらのアートチャレンジとなりました。子どもはもちろん、付き添いの保護者も一緒に笑顔満載でアートチャレンジしました。続けて塗り絵。切り貼り絵にチャレンジ。「綺麗に塗る」が目的ではありません。色使いも自由です。中にはハサミで切ったり手でちぎったり、そしてそれを糊で貼り付けて全く新しい切り貼り塗り絵を完成させる子もいます！まさに子どもはみんなアーティストです！子どもたちの作品をデコピン先生は随時、マイクを使って会場の皆さんに紹介し、且つ解説をします。子どもたちはそれを見て、また自分の作品を皆さんに紹介して欲しいという欲求が溢れて来て、そしてまたアイデアを出して描き出します。プラスプラスの相乗効果で、子どもたちはアートチャレンジにますます集中します。アートチャレンジはいよいよメインのアートワークへ！普段は描くことのない大きな大きな机(卓球台)や床面にそれぞれの感覚で作画します。完成させた子どもたちは、Zunguka 共和国の皆さんが演奏し</p>

ているステージと一緒に踊ります！子どもたちは夢中でリズムを取ります！誰もが満面の笑みです。保護者の方も一緒に素敵な絵が溢れた活動となりました。

【計画時の事業目的(取組課題)と実施効果】

【実際の効果と課題】

<事業目的>

昨年度、2019年2/2(土)川崎市宮前市民館1階大会議室で開催し、総勢:85名(一時来場者を含めると100名超)に参加頂いた本活動を、今年度は昨年度の開催に改善事項を加え、更なる充実と波及効果を目指す。

「音を絵にしてみよう!」「ジャズを聴いて絵を描こう!」の主旨で子どもたちの創造性を育む。

子どもはみんなアーティスト。目に見えない「音」を感じるままに、クレヨンアートやタイダイ染めのちぎり絵ワークでの表現を学ぶ。住んでいる地域から出る機会が少ない障がい児も、また障がい児と同じ場所を共有する機会が少ない健常の子どもも共に同じ場所でジャズを体感して創作活動にチャレンジすることで「夢」や「希望」を知覚する。

音楽や美術は障がい者にこそ必要な表現活動。コミュニケーションのツールとしてアートが持つ意味を楽しさや喜びの中で習得する。アートを介して、自分の気持ちを伝える、他者を理解する、の双方向の大切さを学ぶ。アート作品等の結果が目的ではなく、そこに至る迄の経験や経過こそが重要。

プロのジャズギタリストによるJazzの生演奏を聴き、体感することで、「楽しい」「嬉しい」「ワクワクする」等の素直な感情を他者へ伝える為のコミュニケーション能力育成を目指す。アートとしてそれが上手な絵等である必要は無い。

<取組課題>

音楽がなんらかの形でアートとして表現出来ているか?自らのアイデアや思い付き、感情を表現出来ているか?共に学ぶ集団、グループの作品に個の表現を重ね、結果それが協働でのアートにどのようにして為ったかを認識出来ているか?各講師の指導に「傾聴」し、「意思」や「印象」を個性として表現出来たか?その、個の作品が、集団での作品へと容易に繋がることを楽しいや嬉しいと感じられているか?を取組課題とする。

<実施効果>

①ジャズを体感して創作活動にチャレンジすることで「夢」や「希望」を知覚する。

②障がい児本人が、自分自身の持つ、文化・芸術の可能性に気づき、思い浮かんだ夢を諦めることなく、未来に希望を持てるようになる。

③文化・芸術が持つエンターテインメントとしての「楽しみ」「気分転換」「気晴らし」「遊び」「息抜き」等が、そのパフォーマンスである障がい児のみならず、周りの家族や仲間をも含め、たくさんの人々に笑顔をもたらす。

・デコピン先生も、Zunguka 共和国のメンバーも、講師としての私たちも、音楽とアートチャレンジに関しては誰も「ダメ!」なことは発信/発言しません。子どもたちがやりたい、やってみたい、とその場で感じたことを「安全」でさえあればなんでもアリで進めます。子どもたちの多くは、Jazzの生演奏、しかも多人数でのライブを体感しながらのアートチャレンジは初めての体験だったでしょう。まさに「夢」や「希望」を知覚出来たと自負しています。そして自分が表現した作品が会場の皆さんにデコピン先生によって紹介されます。子どもたちは大いなる自信が身体中に湧いてきたことでしょう。

・講師は各テーブル(グループ)間を移動しながら、時には隣にゆっくりと座って、各自にアドバイスしながら時には一緒に描きます。「それはこんな風に表してみようか」等、表現の幅を広げることへ導きました。講師はそれらの作品を子どもたちと共にみんなの前で解説し、みんなからも意見を募りました。

・子どもの作品の貼付を繰り返すことで、参加者みんなでの共同アートがいつの間にか完成しています。個の作品が、集団での作品へと変貌したことを実感しあい、評価しあうことが出来ました。

※結果、「作品」にする手法を経験し、創作過程を経て個々に合った表現スタイルの習得を図れました。

※表現し得た「作品」を発表/評価し合うことで、他者理解の経験/習得を図れました。

<アンケート結果>

◎人見知りの子が、デコピン先生に「見て!」と声をかけたことが驚きでした。

◎始まりから終わりまで家族全員で楽しめました!

◎うちの子があんなに音楽で踊るなんて本当にもうビックリでした。

等のメールやお声掛けを頂きました。